8801 アメリカに長く住んでいた日本人の一家・・・

アメリカに長く住んでいた日本人の一家が日本に帰って来た．彼らを待ち受けていたものは，言語にまつわる小さな，しかし，彼ら自身にとっては非常に大きな悲劇であった．子供たちが日本語という言語の壁にぶつかったからだ．

言語は，幼稚園から小学校時代までの間に完成するといわれるが，子供たちはちょうどその時期にアメリカにいた．言語は社会的な習慣であり，子供たちは完璧な米語を家庭のそとで習得してしまったのである．日本の学校に通うには，子供たちの日本語はあまりに貧弱であった．

守　誠『華麗なる窓際族』

［許容訳例］

A Japanese family who had lived in America for a long time came back to Japan. Awaiting them was a small but for them very serious linguistic calamity: the children came up against the barrier of Japanese.

The linguistic faculty is said to become fully developed in the period between kindergarten and elementary school, during which the children stayed in America. Since linguistic ability is a habit acquired by training in society, the children, without any effort, learned perfect American English outside the home; their Japanese was too poor for them to attend school in Japan.

［翻訳例］

A family of Japanese who had been living in the U.S. for a long time came back to Japan. Awaiting them there was a minor though for them extremely serious calamity involving language: the children found themselves up against a linguistic barrier in the shape of the Japanese language.

Linguistically, the formative years are said to extend from kindergarten to primary school, and this was precisely the period during which the children had been in America. Language is a socially acquired habit. The children had, effortlessly, acquired a perfect command of American English outside the home, while their Japanese was quite inadequate for them to attend school in Japan.

■アメリカに長く住んでいた日本人の一家が日本に帰って来た．(8801)

★「アメリカに」は in America でもいいですが，誤解を招かないようにするには in the U.S.でしょう．

★「長く」は for a long time でいいです．

★「住んでいた」は，had lived です．これは過去のある一点からその前にさかのぼる典型

的な時制の使い方です，なお，had been living としても構いません．「日本に帰るまでずっと」という感じが出るので，この方がいいかもしれません．
★「日本人の一家」は a Japanese family でも a family of Japanese でもいいです．
●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」（アメリカに長く住んでいた日本人の一家）
「アメリカに長く住んでいた日本人の一家」は「連体修飾節（アメリカに長く住んでいた）＋不定代名詞的体言（日本人の一家）」ですから，英語では「名詞(A Japanese family/ A family of Japanese)＋関係詞節(who had lived [had been living])」です．なお，who の場合は複数ですが，a family を一つのユニットと考えて関係代名詞は that または which でも使えます．その場合は単数扱いです．
★「日本に帰って来た」は came back to Japan です．
■彼らを待ち受けていたものは，言語にまつわる小さな，しかし，彼ら自身にとっては非常に大きな悲劇であった．(8801)
●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」（彼らを待ち受けていたもの）と「文体」
「彼らを待ち受けていたもの」は「連体修飾節（彼らを待ち受けていた）＋関係詞節（もの）」ですが，「・・・もの」にこだわって what waited for them とすると，既に読者も当然何かが待っていたということがだいたい想像がついているという感じになります．つまり，意外性がなくなってしまうので好ましくありません．それで，これは文体と言うか，記述の順序の問題になりますが，たとえば，He came into the group. Standing by the window was an old man with long hair.と同じ手法で，「彼らを待ち受けていたものは・・・」は「～が待ち受けていた」（~ was waiting for them/ ~ was awaiting them/ ~ was lying in wait for them）を逆にして，there を加えて Waiting for them there/ Awaiting them there was.../ Lying in wait for them there was…とすれば，もとの日本文に相当する英文になります．
●「天体修飾節＋不定代名詞的体言」（言語にまつわる（・・・）悲劇）
「言語にまつわる（・・・）悲劇」も「天体修飾節（言語にまつわる（・・・））＋不定代名詞的体言（悲劇）」です．英語では「名詞(a calamity)＋関係詞節(which involves language)」です．ただし，「関係代名詞＋現在時制」は「現在分詞」に変えることが出来るので a calamity involving language です．なお，「言語にまつわる悲劇」は linguistic calamity とすること も可能ですが，ちょっと問題があります．ここの「悲劇」は，単に言語だけの問題ではなく，むしろ social なものであって，その原因はどこから来るかというと言語である，ということだと思います．それから，「悲劇」ですが，tragedy を使うと，何かもうすべてが終わってしまったという感じになります．ここの「悲劇」は突然思いがけなく襲ってくる災難・不幸という意味で使われているのですから calamity を用いる方がいいと思います．なお，その意味なら trouble も間違いではありませんが，ちょっと弱いです．
★「小さな，しかし，かれら自身にとっては非常に大きな悲劇」は a small but for them very serious calamity でしょう．for them の前後にコンマを入れてもいいです．なお，「小さな」は minor でもいいし，「非常に大きな」は extremely serious でもいいでしょう．また，a minor

[small] --though for them extremely serious—calamity…という書き方も可能です.
■子供たちが日本語という言語の壁にぶつかったからだ.（8801）
★「子供たち」は当然「その子供たち」です．英語では「了解情報」には定冠詞を付けますが，日本語では「その」など普通は付けません．e.g. The post office is next door to the court house.（郵便局は裁判所の隣にある.）
★「日本語という言語の壁」は the barrier of Japanese でも意味はわかりますが， a linguistic barrier in the form [shape] of Japanese とした方が英語らしくなります.
★「～にぶつかった」は were confronted with ~とか came face to face with ~; came [found themselves] up against ~などです．なお，faced は「（敢然と）立ち向かった」という意味になります．ここでは使えません.
■言語は，幼稚園から小学校時代までの間に完成するといわれるが，子供たちはちょうどその時期にアメリカにいた.（8801）
★「言語は・・・完成する」は，直訳しても意味をなしません．著者の言いたいことは「（幼稚園から小学校（時代）の間に）言語的（運用）能力が充分に発達する」とか、あるいは「言語的には、その形成期は（幼稚園から小学校（時代）までの間）である」ということです．ここでは「言語能力」とか「言語の運用力」，つまり， the linguistic faculty とするか，「言語的に、その形成時期」(linguistically, the formative years)と処理するかです．ただ，faculty というのは「能力，才能」，つまり，あくまでも可能性を意味するわけですから，それがこの時期に完成してしまうとするとおかしくなるわけです，ここで言っている「言語」というのは「幼年時代に身につく言語・覚える言語」ということでしょうから.
★「幼稚園から小学校時代までの間に」は in the period between kindergarten and primary [elementary] school か，あるいは， from kindergarten to primary [elementary] school でしょう.
★「完成する」は the linguistic faculty を主語にするなら「充分に発達する」と考えて become fully developed とするか，the formative years (of language)を主語にして extend from kidergarten to primary [elementary] school とします．なお，accomplish は「最後までちゃんとやりとげる，マスターする」という意味ですから，be accomplished はここでは使えないと思います.
★「・・・と言われている」は is said to…です.
●［が］（→のに，あろうことか）
「・・・と言われている［が］,・・・」の［が］は「逆接」ではなく「話題導入」ですから and でつなぐか，あるいは［が］に含まれている「・・・のに，あろうことか・・・」という曖昧さを「コンマ＋関係詞」で表すことになります．次の★参照.
★「・・・が，ちょうどその時期に」は…, during which…か，もう少し強調してコンマをダッシュにするか，あるいは「ちょうどその時期」をもっと強調して--during precisely which period…とした方がいいでしょう．あるいは…, and this was precisely the period during

which…とするかです.
★「アメリカにいた」は stayed でも were でもよいし，また，最初の「アメリカに長く住んでいた」と同じ時期であるから，同じく過去完了にしてもいいでしょう.
■言語は社会的な習慣であり，子供たちは完璧な米語を家庭のそとで習得してしまったのである.（8801）
★「言語は社会的習慣である」の「社会的習慣」は「他人とつきあうことによって身につくもの」という意味ですから Language is a socially acquired habit.でいいですが，意訳して Linguistic ability is a habit acquired by training in society [by contact with society].としてもいいでしょう.
●［連用形］（・・・であり）
　ここの「・・・で［あり］」は一般論で，それを個別事例の判定に使っているので「・・・である［から］」と解することが出来ます．したがって，衆知のこととして Since…としてもいいし，いったん文を切ったり，「すなわち」の意味でコロンでつないだりするといいと思います.
★「完璧な米語」は perfect American English でいいですが，a perfect command of American English と書くことも出来ます.
★「家庭の外で」は outside the home です.
★「習得した」は言語を目的語にするなら learned でしょうし，運用力を目的語にするなら acquired ぐらいです.
★「・・・しまったのである」という語り口の中には「当然のことながら」とか「努力しないで」という意味が含まれています．そのニュアンスは quite naturally でも表すことができますが，「当然」というニュアンスがあるのでちょっとずれるかもしれません．その意味では without any effort; effortlessly などの方がいいでしょう.
■日本の学校に通うには，子供たちの日本語はあまりに貧弱であった.（8801）
★「日本の学校に通う」は attend school in Japan です.
★「・・・には，あまりにも・・・であった」は was too … for ~ to…という決まった構文があります.
★「あまりにも貧弱な」は too poor とか，代わりに，quite inadequate としてもいいでしょう.
●文の関係性をはっきりさせる
　「子供たちは完璧な米語を家庭のそとで習得してしまったのである．日本の学校に通うには，子供たちの日本語はあまりに貧弱であった.」と日本文は切って二文にしてありますが，二つの文の関係をはっきりさせるために，英文では and on the other hand の意味で，セミコロンにするか「コンマ＋while」と続けた方がいいと思います.